

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 実施日 2021年12月16日(木) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
OGO6 2	アルドステロン〔CLEIA〕 /レニン濃度比 4D122-0000-022-919	血漿 1.0	PN2,PN5 (C) ↓ A00 (X)	凍結 (21日)	2~4	125 + 108 ※5	CLEIA	裏面参照	下記 参照

※5：生化学的検査(Ⅱ)判断料

- 基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。

【関連項目情報】

- 日本高血圧学会の「高血圧治療ガイドライン2019」に準拠したカットオフ値(アルドステロン/レニン濃度比 40以下)をご利用される場合は、「8038 0：アルドステロン/レニン濃度比」をご依頼ください。
本項目の導入に伴い「8038 0：アルドステロン/レニン濃度比」の総合検査案内の備考欄を「基準値は、日本高血圧学会の「高血圧治療ガイドライン2019」によるカットオフ値です。濃度比のアルドステロンはRIA相当値で計算いたします。」に変更いたします。



● アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比

「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」の演算法・カットオフ値に対応した項目です。

二次性高血圧の主な原因とされる原発性アルドステロン症（primary aldosteronism：PA）は、高血圧において約5%を占めることが報告されています。

日本内分泌学会「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」ではPAのスクリーニング検査としてCLEIA法による血漿アルドステロン濃度（PAC）および、血漿アルドステロン濃度（PAC）と血漿レニン活性（PRA）または活性型レニン濃度（ARC）との比（ARR）が指標とされています。

▼検査要項

検査項目名	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比
項目コード	親：OG06 2 アルドステロン（CLEIA）/レニン濃度比 子：OG07 0 アルドステロン（CLEIA） 子：OG08 7 レニン濃度（CLEIA） 子：OG09 4 アルドステロン（C）/レニン濃度比
検体量	血漿 1.0 mL
容器	PN2, PN5 (C) → A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	必ず凍結保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値	下記参照
報告範囲（単位）	アルドステロン（CLEIA）：4.0未満、4.0~99900000 (pg/mL) レニン濃度（CLEIA）：0.20未満、0.20~99900000 (pg/mL) アルドステロン（C）/レニン濃度比：~99900000
桁数	アルドステロン（CLEIA）：有効3桁、整数8桁、小数1桁 レニン濃度（CLEIA）：有効3桁、整数8桁、小数2桁 アルドステロン（C）/レニン濃度比：有効3桁、整数8桁、小数0桁
検査実施料	125点+108点 （「D008」内分泌学的検査「14」+「D008」内分泌学的検査「11」）
判断料	144点（生化学的検査（Ⅱ）判断料）
備考	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。

[OG06 2]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 の留意事項

- 採血条件は早朝空腹時の安静臥位後が望ましいが、スクリーニングでは随時座位で行って良い、とされています。
- 冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

[OG06 2]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 基準値

アルドステロン〔CLEIA〕 (pg/mL)	4.0~82.1
レニン濃度 (ARC)〔CLEIA〕 (pg/mL)	2.21~39.5
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比	20未満

- ※ 陽性判定は、濃度比 ≥ 40 かつ血漿アルドステロン濃度 ≥ 60 pg/mLです。ただし、「ARR境界域」の濃度比20~40未満かつ血漿アルドステロン濃度 ≥ 60 pg/mLの場合には、暫定的に陽性とされます。
- ※ 暫定的に陽性の場合、患者ニーズと臨床所見、特に低カリウム血症や副腎腫瘍の有無、年齢などを考慮して、機能確認検査実施の可否を個別に検討する、とされています。

●参考文献

- 佐藤 文俊, 他：医学と薬学 76 (12) : 1819~1826, 2019. (検査方法参考文献)
 佐藤 文俊, 他：医学と薬学 76 (12) : 1827~1832, 2019. (検査方法参考文献)
 日本内分泌学会：日本内分泌学会雑誌 97 (Suppl) : 16~21, 2021. (臨床的意義参考文献)